

1. 漁海況速報事業

カツオ、マグロの漁況について各操業船から情報を蒐集し、漁場、廻游量、漁獲量について、10日毎に集計し整理検討の上、漁況速報を作製し、操業船の能率的操業に役だてるため各業者、組合、関係機関に配布した。

1) マグロ漁況旬報

図南丸外公庁船。当業船多数の協力を得て那覇漁業無線局を通して漁況の蒐集を行い、1966年7月上旬第42号より1967年6月中旬74号までマグロ漁況旬報を32回作成配布した。

2) カツオ漁況旬報

1966年のカツオ漁獲量は3500トンという史上最悪の不漁であった。沖縄水産業の中核として君臨した1959年、1960年代の最盛時に比べて、その斜陽化は目を覆うばかりである。そこで水研としてはカツオ漁業復興に寄与すべく、カツオについての研究を始めた次第であるがカツオ業者にとって早急に必要なのは、漁場分布であるため、漁場位置を含めたカツオ漁況速報事業に着手した。

今期カツオ漁の予想としては、黒潮勢力の増大期にあたることと、昨年、一昨年と鹿児島、宮崎のカツオ船が好漁を続けたこと等に鑑み、また4、5月の海洋観測結果と先島海域におけるカツオ廻游調査結果から、今期のカツオ漁は昨年に比して、好漁が期待される旨予報を発送した。

漁況は本部、座間味、池間、佐良浜、石垣の五地区から10日毎の葉書による各標本船から、漁獲成績を蒐集し、1967年5月下旬、第1号から1967年5月下旬第4号まで4回カツオ旬報を作製し、各漁協組合、関係機関へ配布した。

1967年5月下旬第1号図1、6月上旬第2号図2、6月中旬第3号図3、6月下旬第4号。

3) カツオ漁況速報

調査船図南丸によるカツオ漁期の初期における漁場調査、廻游状況の調査を行い、航海速報として、そのつと各組合、業者、機関に配布した。

実施月日

第1回：1967年4月10日～4月19日 琉球近海、図5。

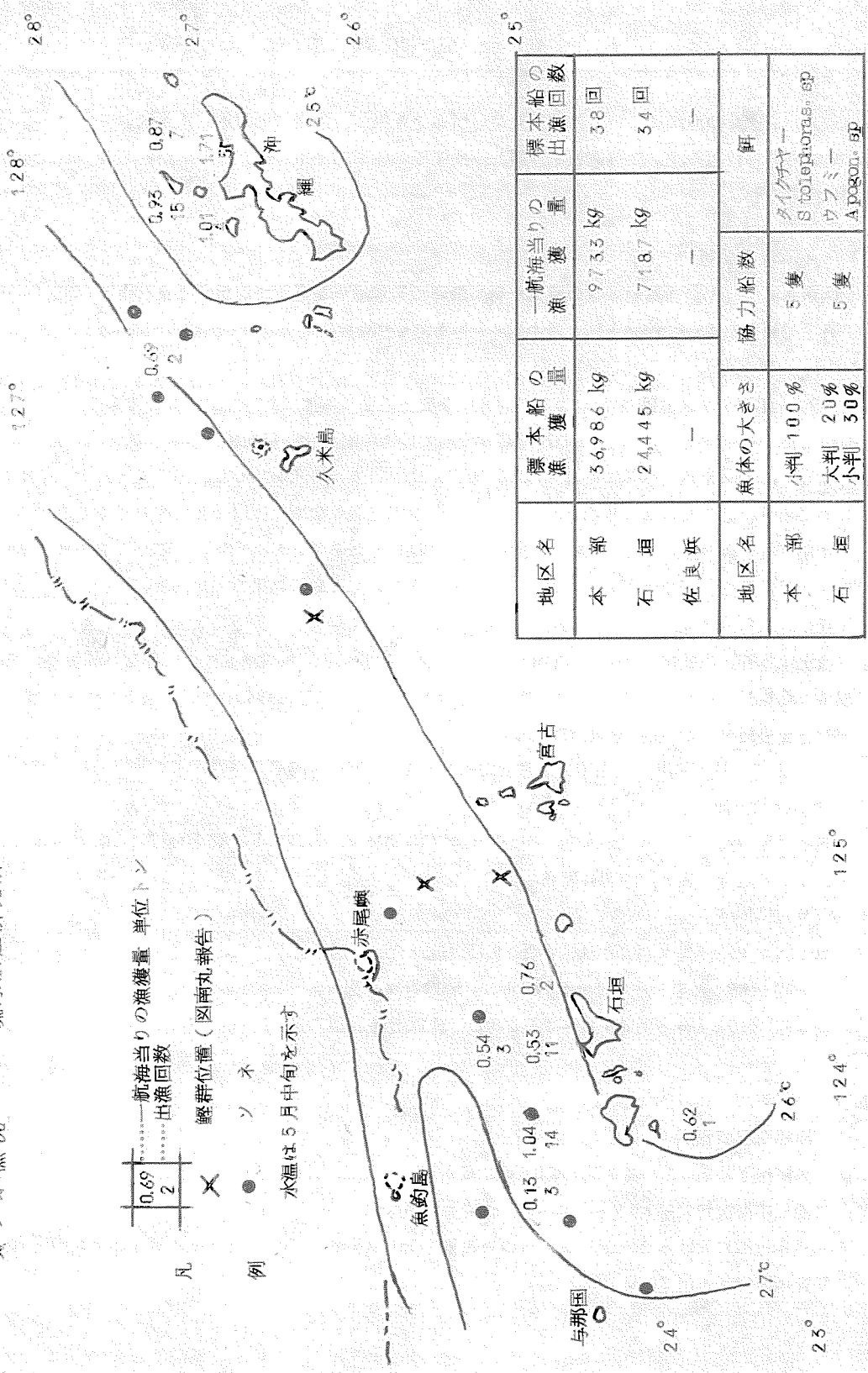
第2回：1967年5月1日～5月24日 琉球近海、図6。

第3回：1967年6月14日～6月28日 琉球近海、図7。

参考文献

- 1 漁場海況概報 №17、№18 西水研
- 2 漁海況予報 №82、№83、№084、№085
- 3 西日本海況旬報第699～705号、長崎海洋气象台
- 4 日本近海におけるカツオビンナガの来遊量とその変動について（第1報）第2報 東北海区水産研究所研究報告第20号、第21号

カツオ漁況 琉球水産研究所



凡 例

| | |
|------|---|
| 0.69 | X |
| 2 | |

—— 航海当りの漁獲量 単位トン
 出漁回数

● ソネ
 X 鯉群位置 (函南丸報告)

水温は5月中旬を示す

| 地区名 | 標本船の漁獲量 | 一航海当りの漁獲量 | 標本船の出漁回数 |
|-----|-----------|-----------|----------|
| 本部 | 36,986 kg | 97,333 kg | 38回 |
| 石垣 | 24,445 kg | 71,877 kg | 34回 |
| 佐良浜 | — | — | — |

| 地区名 | 魚体の大きさ | 協力船数 | 餌 |
|-----|------------------|------|--|
| 本部 | 小判 100% | 5隻 | ダイクチャ |
| 石垣 | 大判 20% 小判 30% | 5隻 | S. telephorus, ep ワフミー A. poro, GP |

1967年5月21日～5月30日

海況

5月下旬は平穏な日が続いたため表面水温は急に上昇し、平年に比べ約2℃高目になっています。当水研の沿岸観測結果によると、沖縄本島西側の表面水温は、平均2.5℃を示し、先月同旬に比べ2.5℃も高くなっています。また、各地の沿岸水温は、平年よりやや1℃高目になっており、全般的に夏季の海況へ移行しています。

漁況

1) 本部地区は四月下旬より出漁しているが、不漁続きで必配された。5月下旬になり、水温上昇と共に、やや好漁をみせているので、本格的な鯉漁期を迎え好漁が期待される。

2) 石垣地区は五月下旬から出漁しているが、好漁している船と極端な不漁船がある。主に石垣島北西方に出漁し、平久保西北ソネ付近で好漁している。一航海平均718kgの水揚げがあり、その7割は大判で占められ、中には飛大もみられる。餌はワフミ（*Argemone sp.*）を用いているが、餌付は悪い。

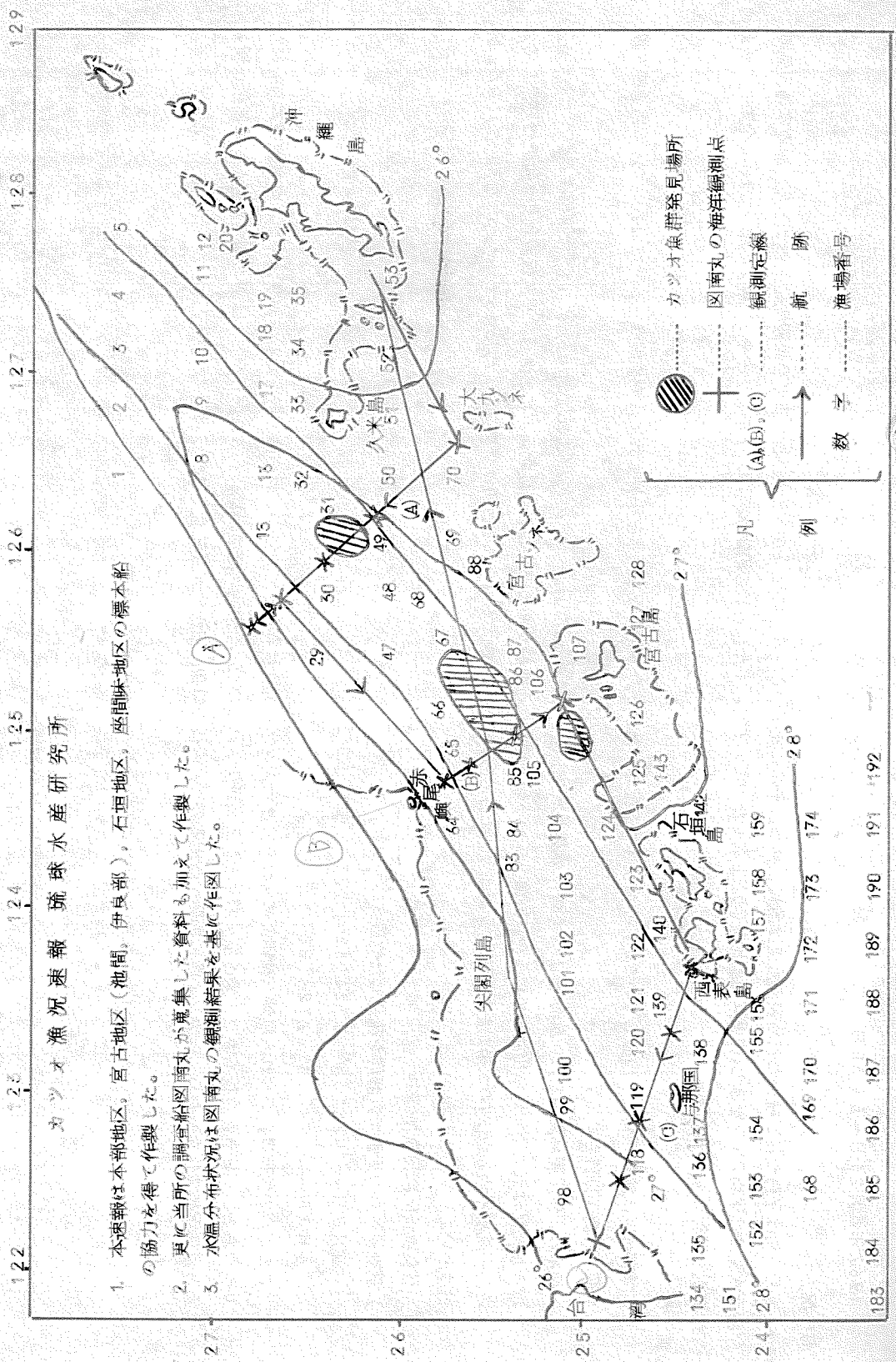
3) 佐良浜地区は出漁準備中

4) 調査船からの入電で、鯉群を確認した位置

6月5日 — N25°35' E124°48', N25°E124°58',

6月4日 — N26°15' E126°08' 付近

この3点の位置は、いづれも黒潮 軸脚部にあたり、また、ソネが近くに存在している。これらは大群をなしており、カツオの来遊が本格的になりつつある。引続き、今後ともカツオ来遊量が增えることが予想されるので、全般的に好漁が期待される。しかし、6月の梅雨を迎え、降雨量が增えると、海況に変化をもたらす、カツオ漁に影響を与えるので、今後の気象、海況に充分注意されたい。



カツオ漁況速報 琉球水産研究所

1. 本速報は本部地区、宮古地区（池間、伊良部）、石西地区、座間味地区の標本船の協力を得て作製した。
2. 更に当所の調査船函南丸が蒐集した資料も加えて作製した。
3. 水温分布状況は函南丸の観測結果を基に作図した。

凡 例

- (斜線) カツオ群発見場所
- ⊕ 函南丸の海洋観測点
- (A, B, C) 観測定数
- 航 跡
- 数字 漁場番号

本年は4月まで水温は平年より低目を続け漁期のおくれが心配されたが5月に入ってからようやく昇温し平年より高目となった。また観測結果によれば6月に入っても平年より1程度高目を示している。これから漁況は愈々活発化しよう。これまでの統計によると冬期低温で夏期高温の年は豊漁すると云われており、今期のカッオ漁は期待がもてる。

各地の原本船資料によれば表1、2のとおりである。これによれば本都地区は前旬よりも低調であるが、池間、石垣、座間味は好転した。なお、宮古地区では台湾から餌購入契約がなり、その第1陳として池間4隻、佐良浜1隻が5月15日出発し、操業に入ったのを皮切りに引続き操業し、好漁を揚げ、今後の宮古カッオ漁業の方向転換に明るい見通しが得られつつある。

なお、当所の凶南丸が6月3日から9日までの7日間に亘り△線とB線、○線の海洋観測を実施した際、航跡附近(航跡は図示のとおり)のカッオ魚群の発見も行ったが、その結果によると△線、○の観測点23点間附近でカッオの大群を発見し、また、4.5点間には赤汐が海面上とところどころに漂い、サブ群も多数出現しているのが見られた。B線上では6・7・8点間には海鳥が多く、特に7点附近では大群2、また観測終了後7、8点附近から、沖繩向け帰途中の航跡上にもカッオ大群3、宮古島北西15哩附近でも大群3を発見している。○線附近では海鳥はまばらで群は発見できなかつた。9点10点間とその北方海域(帰途航跡上)は航海の都合で夜間の都合で状況を把握できなかつた。これらの状況から考えるとカッオは盛漁期に入った感がある。

第1表 地区別漁況 6月上旬

| 地区名 | 標本船数 | 標本船の漁獲量 kg | 標本船の出漁回数 | 一航海当り 漁獲量 kg | 魚体の大きさ | 餌魚の種別 状況 | 備考 |
|-------|------|---------------|----------|--------------------|--------|-------------|-----------------------------------|
| 本 部 | 5 隻 | 1,754.9 | 22 | 797.7 | 5 号 | タレクチ | |
| | | | | | 大 中 小 | カタクチ | |
| | | | | | 大 中 小 | バカジヤコ | |
| 池 間 | 5 隻 | 435.02 | 21 | 207.15 | 22 | カタクチ | 台湾でカタクチイワシを購入し、罟業 中の3隻分のもの |
| | | | | | 大 中 小 | カタクチ | |
| | | | | | 大 中 小 | テンジクダイ | |
| 池 間 | 3 隻 | 334.47 | 6 | 557.45 | 45 | カタクチ | |
| | | | | | 大 中 小 | カタクチ | |
| | | | | | 大 中 小 | スズメダイ | |
| 石 垣 | 5 隻 | 320.22 | 32 | 1,000.6 | 71 | テンジクダイ | |
| | | | | | 大 中 小 | スズメダイ | |
| | | | | | 大 中 小 | テンジクダイ | |
| 座 間 床 | 3 隻 | 2,167.8 | 14 | 1,548.4 | 76 | テンジクダイ | 1 隻は台湾罟使用し2航海で5,495kg の漁獲があった。 |
| | | | | | 大 中 小 | ミスン | |
| | | | | | 大 中 小 | テンジクダイ | |
| 伊 良 部 | 5 隻 | 1,101.0 | 17 | 648 | — | カタクチ | |
| | | | | | 大 中 小 | カタクチ | |
| | | | | | 大 中 小 | カタクチ | |

第1表-2 5月下旬

| | | | | | | | |
|-------|-----|----------|----|---------|-------|--------|-------------------------------|
| 池 間 | 5 隻 | 1,808.11 | 14 | 1,241.5 | 20 | カタクチ | 台湾から餌購入契約成り5月15日に その第一陣が出発 |
| | | | | | 大 中 小 | バカジヤコ | |
| | | | | | 大 中 小 | カタクチ | |
| 池 間 | 4 隻 | 686.13 | 4 | 1,715 | 22 | カタクチ | 5月24日から罟業開始 |
| | | | | | 大 中 小 | カタクチ | |
| | | | | | 大 中 小 | カタクチ | |
| 座 間 床 | 2 隻 | 217.2 | 7 | 310 | 100 | テンジクダイ | |
| | | | | | 大 中 小 | テンジクダイ | |
| | | | | | 大 中 小 | テンジクダイ | |

第2表 漁場別操業状況（6月）

| 漁番 | 漁場号 | 漁獲高 | 出回数 | 1日漁獲高 | 地区別 | 標本船数 |
|---------|-----|---------|-----|-------|-----|------|
| 14 | | 1,181.5 | 3 | 394 | 本部 | 5隻 |
| 13 | | 7,160 | 8 | 895 | " | " |
| 7 | | 7,085 | 2 | 354 | " | " |
| 12 | | 6,843.5 | 7 | 977 | " | " |
| 6 | | 1,055.5 | 1 | 1,055 | " | " |
| 10 | | 600 | 1 | 600 | " | " |
| 16 | | 5,730 | 3 | 1,910 | 座間味 | 3隻 |
| 10 | | 2,760 | 2 | 1,380 | " | " |
| 31 | | 3,210 | 2 | 1,605 | " | " |
| 32 | | 5,010 | 4 | 1,252 | " | " |
| 49 | | 870 | 1 | 870 | " | " |
| 69 | | 3,960 | 1 | 3,960 | " | " |
| 86 | | 3,575 | 7 | 511 | " | " |
| 106 | | 5,681 | 7 | 811 | " | " |
| 108 | | 799 | 1 | 799 | " | " |
| 109~170 | | 13,644 | 2 | 6,822 | " | " |
| 155 | | 3,826 | 1 | 3,826 | " | " |
| 118 | | 8,619 | 1 | 8,619 | " | " |
| 136 | | 7,358 | 2 | 3,679 | " | " |
| 103 | | 3,416 | 4 | 854 | " | " |
| 104 | | 4,463 | 2 | 2,232 | " | " |
| 172 | | 5,101 | 7 | 728 | " | " |
| 123 | | 1,052 | 10 | 105 | " | " |
| 122 | | 6,214 | 5 | 1,243 | " | " |
| 188 | | 1,938 | 3 | 646 | " | " |
| 157 | | 838 | 1 | 838 | " | " |
| 106 | | 5,515 | 15 | 368 | 伊良部 | 5隻 |
| 137 | | 4,847 | 1 | 4,847 | " | " |
| 138 | | 648 | 1 | 648 | " | " |

5月

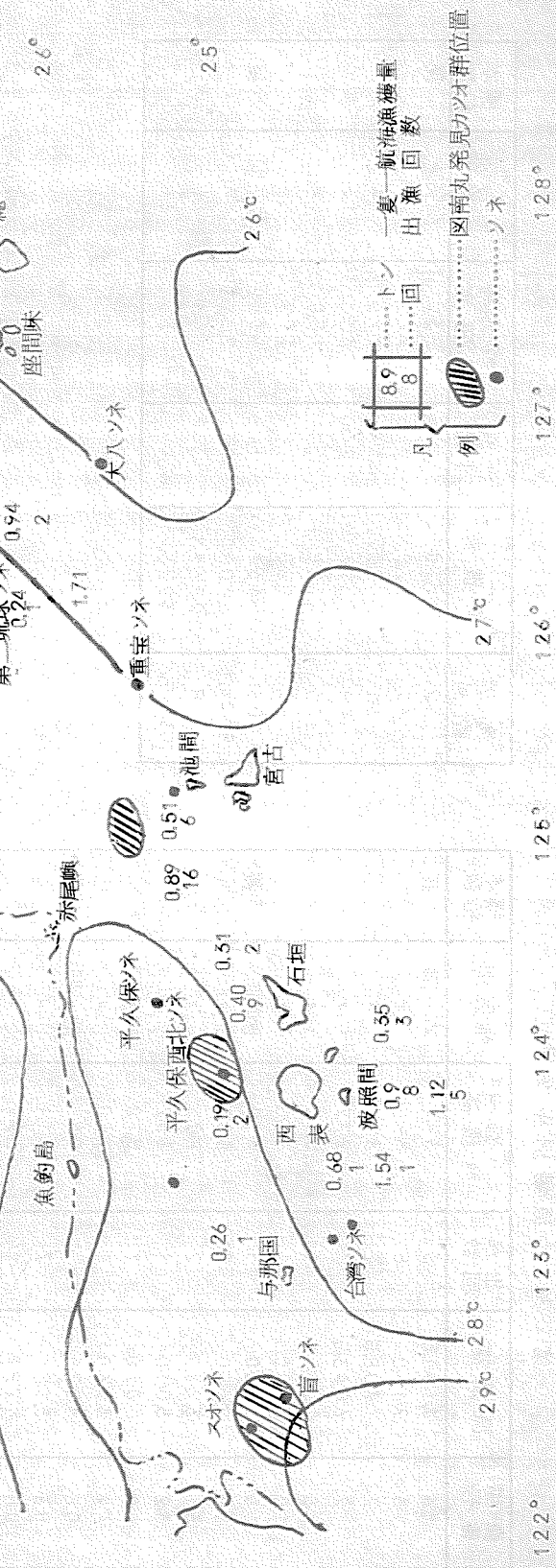
| 漁番 | 漁場号 | 漁獲高 | 出回数 | 1日漁獲高 | 地区別 | 標本船数 |
|---------|-----|----------|-----|-------|-----|------|
| 32 | | 30 | 1 | 30 | 座間味 | 2隻 |
| 69 | | 270 | 1 | 270 | " | " |
| 51 | | 96 | 1 | 96 | " | " |
| 70 | | 676 | 2 | 436 | " | " |
| 55 | | 780 | 1 | 780 | " | " |
| 49 | | 120 | 1 | 120 | " | " |
| 106 | | 436 | 1 | 436 | " | " |
| 86~105 | | 10,808.5 | 9 | 1,201 | 池間 | 5隻 |
| 118 | | 2,861.3 | 3 | 953 | " | " |
| 153~154 | | 3,975 | 1 | 3,975 | " | " |

カサオ漁況速報 第三報

1957年6月中旬(11~20日)

琉球水産研究所

| 地区 | 一隻航 毎当りの 漁獲量 | 魚体の 大きさ | 餌付状況 | 出漁 回数 |
|-----------|--------------------|------------------------------------|-------------|----------|
| 本部 5隻 | 7.69 kg | 中判 4% 小判 96% | タイクサ 悪 | 28回 |
| 石垣 5隻 | 6.43 | 大判 74% 中判 6% 小判 20% | テンジクダイ 悪 | 31 |
| 座間味 3隻 | 15.47 | 大判 87% 小判 15% | テンジクダイ 良 | 25 |
| 伊良部 隻 | 6.78 | 大判 9% 中判 82% 小判 9% | テンジクダイ 悪 | 23 |



海況

南西諸島一帯に梅雨前線が停滞しているが、表面水温は先旬に比べて、先島方面で0.4℃、那覇で0.1℃の昇温がみられ、黒潮主流域は平年並である。今後の表面水温はゆっくりとした上昇傾向を続ける見込である。

漁況

カツオの来遊量は先旬に比べて増加しているが、漁況は全般的に中たるみを呈している。沖縄島北方各ソネでは小判が主群で漁況は低調である。図南丸調査結果では、宮ソネ、平久保西北ソネ、宮古島N30～40哩の各点で海鳥付群を発見しており、それらは大判が主体である。

池間、佐良灰の台湾からの餌購入船の水揚げは好調が続いている。近海のカツオ群は群が小さく、能率的な操業を防いでいる。

1) 本 部：出漁回数、一航海当りの漁獲量が先旬より減少し、漁況は低調である。相ノソネ、偉業ソネ方面で操業している。カツオ群は豊富にいますか押持ちのため喰い付きが悪く、不漁をかこっている。

2) 座間味：18日、19日以降になって各船とも好漁が続けており、琉球ソネ西方では大判を釣獲している。

3) 伊良部：宮古近海操業船は、一航海平均814kgで、漁場は伊良部島NW30～40マイルである。台湾から餌購入船は不調である。

4) 池 間：台湾からの餌購入船は一航海平均4,000kg前後で好調であるが、餌の活力、孵化等により、豊、不漁の波が激しい。

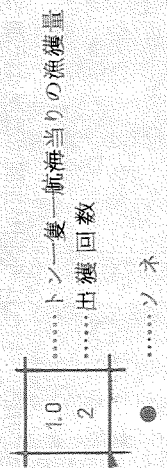
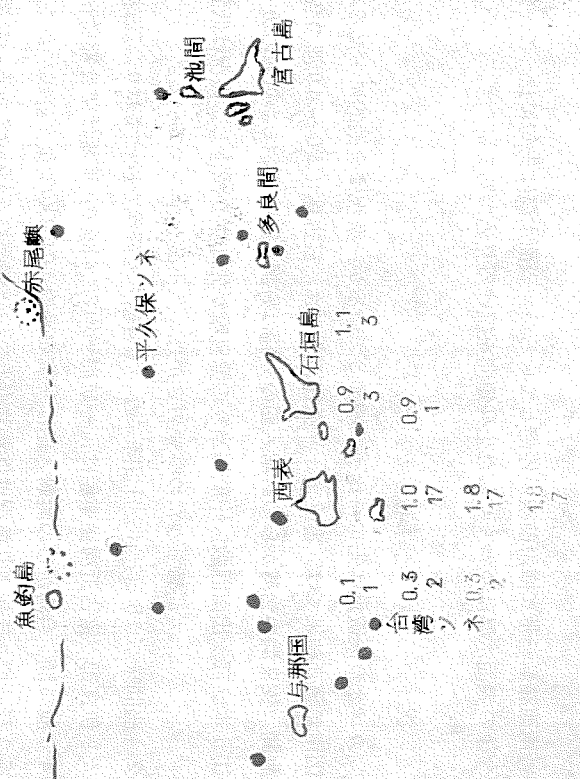
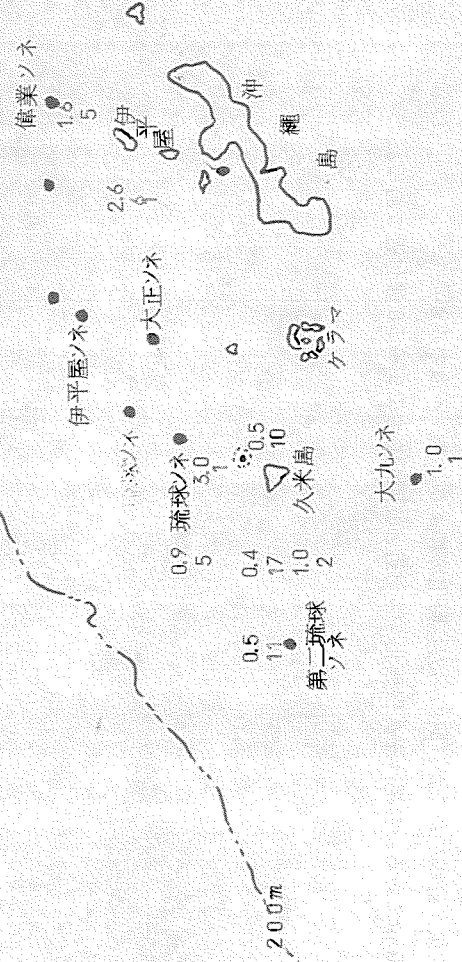
5) 石 垣：先旬より漁況は低調になり、一航海平均640kgである。漁場は平久保西北ソネ付近と波照間島S20～30哩付近である。

| 島名 | 緯度 | 経度 | 備考 |
|------|---------|----------|----|
| 石垣島 | 24°30'N | 128°15'E | |
| 宮古島 | 24°15'N | 128°15'E | |
| 伊良部島 | 24°00'N | 128°15'E | |
| 池間島 | 23°45'N | 128°15'E | |
| 座間味島 | 23°30'N | 128°15'E | |
| 本島 | 23°15'N | 128°15'E | |
| 那覇 | 26°15'N | 127°45'E | |

第四報 魚況速報

1967年6月下旬(21日~30日) 琉球水産研究所

| 地区 | 一隻一航漁獲量 | 魚体の大きさ | 餌付状況 | 出漁回数 | 6月中旬一航漁獲量 |
|----------|----------|----------------------|---------------------|------|-----------|
| 本部 5隻 | kg 689 | 大 85 | 悪 ダイクテヤー キピナゴ | 36 | kg 769 |
| | kg 1,106 | 大 53 中 36 小 11 | テンジク やや良 テンジク | 34 | kg 645 |
| 石垣 5隻 | kg 830 | 大 60 中 33 小 1 | 悪 | 20 | kg 1,549 |



海 況

6月中旬に引き続き全体的に一隻平均875kgと漁況は低調である。琉球ソネ域にかけて前回より出漁回数が増加しているが、漁獲成率は芳しくない。俵業ソネ付近からは前日より水揚げはやや上回っている。

図南丸からの報告によると西表島SE、台湾ソネ周辺にカツオの大群に出合っている。

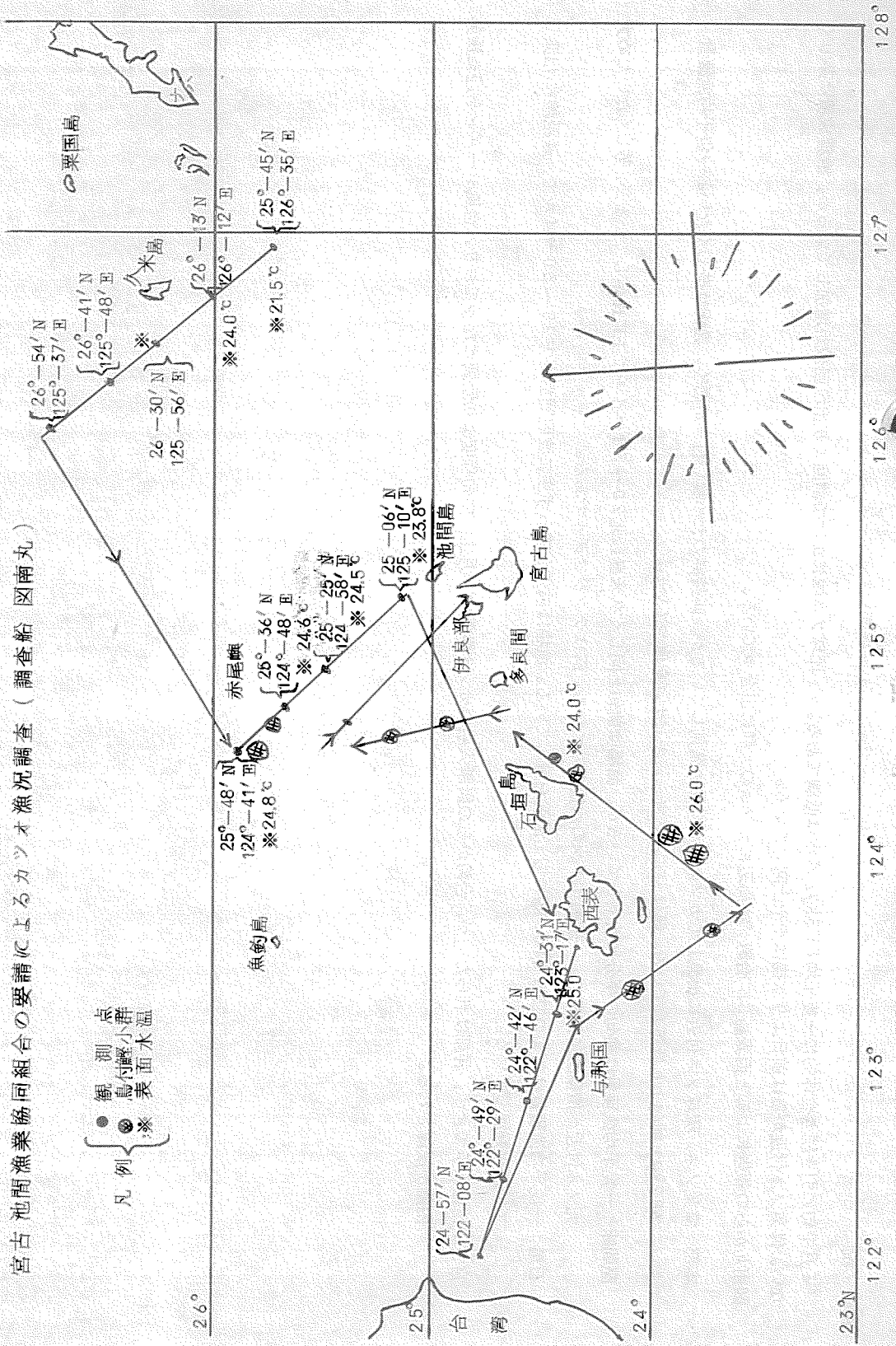
本部：俵業ソネ、琉球ソネ付近に出漁してカツオ群を容易に発見しているが、餌持群のため喰い付きが悪く、漁況は芳しくない。一隻平均漁獲量689kgと前旬より低下している。餌はタイジクサ一、キビナゴを使っている。

座間味：一隻平均漁獲量は前旬の半分に低下しているが、漁場は前旬と同じく久米島西北20～30マイルで主に操業しているが、芳しくなため大九ソネ付近へ積極的に出漁し、一航海1トンの水揚げをみている。餌はテンジクダイである。

石垣：一隻平均漁獲量は前旬の二倍1,106kgに増え活況を呈している。漁場は前旬と変わらず主に波照間島南方20～30マイルで、遠距離に出漁している程好漁している。

宮古：情報入手できず、詳細は判らないが、台湾からの餌購入船のカツオ漁況は6月上、中旬程度より低調になっており、台風シーズンを迎え操業困難が憂慮される。

宮古池間漁業協同組合の要請によるカツオ漁況調査（調査船 函南丸）



- 凡例
- 観測点
 - ⊙ 鳥付鰹小群
 - ※ 表面水温

カツオ漁況速報第一報

(調査期間 1969年4月10～4月17日)

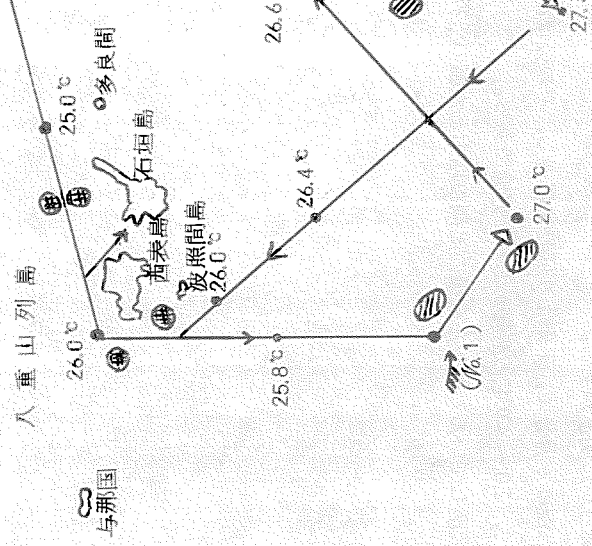
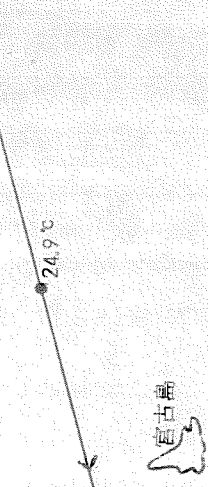
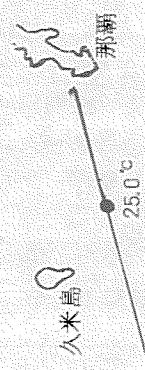
4月10日観測点15を設点し、本島から与那国、台湾近海まで、くろしおの横断観測を実施しながらカツオ漁群の遡游状況を調査した。

結果は、カツオ、海鳥群の発見位置とその時の水温状況は図示したとおりである。

表面水温、下層水温が低く、カツオの遡游成期には、まだ早いでしょう。図示した航跡線上には、海鳥は多々見られたが、カツオ群はまばらである。海況とカツオ漁況とは明らかに関連がある。

今年、潮流域の海況は6月まで、平年より低日に経過し、その後は高日になると、予想されるでしょう。N13°、E135°～136°では鹿児島のカツオ船が出漁して、20～40屯の漁獲があり、好漁である。

上記によって、南方で大漁していることから今後の黒潮の増大と水温の上昇によっては大量のカツオ沿岸遡游が予想されるでしょう。



- 凡例
- 投網地点
 - △ 揚網地点
 - カソダ
 - ⊗ ソウダ
 - ⊕ 表面
 - 潮流

カツオ漁況速報第二報

(調査期間、1967年5月3日至7日、5日間)

今回は、時季的に來遊するマグロ漁場調査を主体に全漁場に、出現するカツオ群の遊泳状況と、海況状況を調査した。結果は漁場図に図示したとおりである。石垣、西表島沿岸には、ソーダカツオ群は多く、西表島南沖合のⅧ1漁場では、カツオの大、小群がそれぞれ見られたが、Ⅷ2漁場附近では、カツオ、海鳥群も少なく、まばらである。Ⅷ3漁場では、海鳥、カツオ群も見られず、結局、カツオ群は、Ⅷ1漁場を中心に観察すれば、東よりに少なく、西よりに多い傾向にある。

海況

沿岸の表面水温は、局部的には前月中旬並であるが全般的に1度昇温を示した。神合の水温は、昨年並に上昇してきました。黒潮流域の水温も前月までは、平年より低目でしたが今後徐々に回復昇温するでしょう。

水温の上昇にもなっており、カツオの接岸遊泳も、まじかに予想されるでしょう。

※ 参考までに、日本カツオ船操業状況について

鹿児島水試4月13日～4月19日迄の漁海況週報によれば日本の小型船は、トカラ列島で広く操業しており、1隻5～10トンの漁で小判が主体で50～80%を占めておる。大型船は、8～20N、135～137E附近で操業、1隻20屯内外の漁。小判が主体、餌餌が悪いとのこと、帰港の途次は宮古島。七島近海で操業しているとのこと。

カツオ洄游状況調査

凡例

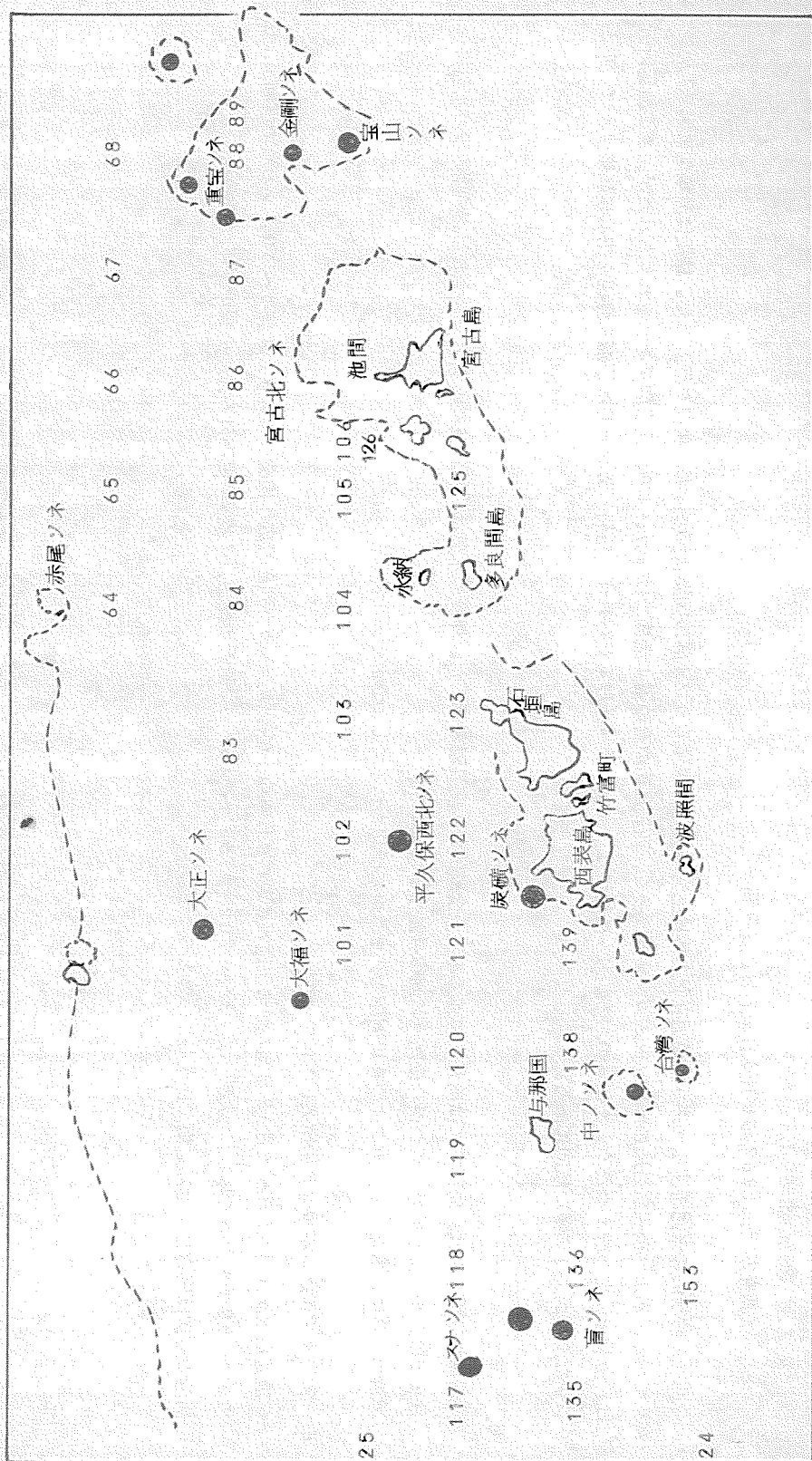


カツオ群

●: 本調査は深海一本釣漁場調査と兼ねて実施した。

⋯: 調査期間: 1967年6月15日 至 20日 6日間

⋯: 調査範囲: 漁場までの航海コース及び、スオ、メクラ、台湾ソネ漁場を中心にカツオの洄游状況を調べた。



カツオ漁況速報〔第4報〕

漁況

図に示したように、カツオの漁も活発になりました。すでに宮古かれは豊漁の知らせもある。

農林海区、68、67、86海区ではカツオの大群が群なしており、102、136、138、139海区でも、小群がところどころに見られる。

5月中旬頃まで心配された水温も順調な昇温を続けている。カツオ漁期を迎え、今後もカツオの遡遊量が増えることが予想される。

昨年不漁であったカツオも今年は図示したように、接岸廻遊が目立っているので好漁が期待される。